

## 読解力と読書活動の関係

先日、文部科学省のデータ集の中の「中学生の読解力と読書活動の関係」について、分析報告されたものを読みました。中学生を対象に読書活動に関する質問紙調査と、言語力（読解力）をはかる読み取り問題を実施し、日常の読書活動やメディアの利用、生活習慣などがどのように言語力に影響を及ぼしているのかを検討したものです。分析の中で、次のような知見が得られたということでした。

読解力は、勉強する科目にかかわらず必要です。陸上、駅伝、文化発表会と忙しい日々が続きますが、毎日10分、20分でも良いので時間を取り、読書習慣を身につけてもらえたらと思います。

- ・何も読まないか、マンガや雑誌を読む生徒より、本を読む生徒のほうが、読解力が高い。
- ・読書に関する体験を多くしているほど、読解力が高い。
- ・本を読む生徒のなかで、読書量（冊数）の多寡（多い少ない）と、読解力との間には、相関関係は存在しない。
- ・家庭に蔵書が全くない生徒では、読解力が低い。
- ・テレビゲームと電話の時間は少ないほうが、読解力が高い。
- ・勉強と新聞を読むことは長すぎても、読解力の妨げにはならない。



## 8・9月 貸出冊数

	図書室	いるか号	7月合計	1人平均	累計	目標冊数	達成率
1年生	82冊	27冊	109冊	5.7冊	825冊	1,641冊	50%
2年生	170冊	128冊	298冊	11.0冊	1,347冊	1,728冊	78%
3年生	76冊	71冊	147冊	5.4冊	771冊	947冊	81%
全体	328冊	226冊	544冊	7.6冊	2,943冊	4,316冊	68%



## 掘り出し物発



しばらく新刊の紹介ばかりしていましたが、今回は、ちょっと古いけど、これはぜひ読んで欲しい！という本を紹介します。図書室には、まだまだ良い本がありますよ！



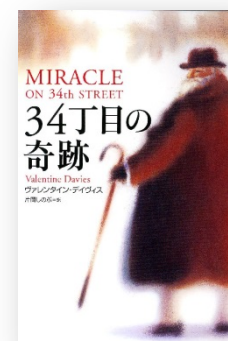
『余命1ヶ月の花嫁』  
TBSテレビ報道局  
/マガジンハウス  
23歳で乳がんを宣告された、女性の実話です。前向きに生きる彼女の姿勢と、家族、恋人、友人たちの優しさに思わず涙が出ます。



『博士の愛した数式』  
小川洋子/新潮社  
「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の背広の袖には、そう書かれた古びたメモが留められていた。暖かい気持ちになれ、数学のことがちょっと好きになれる作品です。



『晴れた朝それとも雨の夜』  
泉啓子/童心社  
家庭環境も性格もそれぞれ異なる三人の女子中学生を主人公に、淡い恋のこと、家族のこと、学校のこと…。共感でき、読後はきっと爽やかな気分になれるはず。



『34丁目の奇跡』  
ヴァレンタイン・デイヴィス  
/あすなろ書房  
サンタクロースそっくりの老人の名前は、クリス・クリングル。クリス・クリングルはサンタクロースの別名。本人も自分はサンタクロースだといふのだ。

### ■こんな本もオススメ■

- ★幸福な食卓/瀬尾まいこ/講談社
- ★怪笑小説/東野圭吾/集英社
- ★夢をかなえるゾウ/水野敬也/飛鳥新社
- ★獣の奏者/上橋菜穂子/講談社
- ★舟を編む/三浦しをん/光文社
- ★東京タワー/リリー・フランキー/扶桑社
- ★村上海賊の娘/和田竜/新潮社
- ★The MANZAI/あさのあつこ/岩崎書店



11月の移動図

11月2日

10月に借りた本を必ず持ってきて下さい！

